

2013 年度後期学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—社会イノベーション学部—

社会イノベーション学部長 古川良治

2013 年度後期学生授業評価アンケートの対象科目数は 262 科目であり、そのうち 223 科目から回答を得られ、回答率は 85.1%となった。調査対象科目の全履修者数は 9,653 名であり、アンケート回答者数は 5,344 名、回答率は 55.4%であった。

アンケートの結果についてであるが、評価項目 14 のうち 11 の設問において 5 点尺度で 4 点以上を得ており、全般に良い評価を得ていると考えられる。学生が自らの出席程度を申告した設問 1 は平均 4.46 であり、授業の評価項目については設問 12「総合的にこの授業を評価できる」、設問 3「教員は授業時間を有効に利用した」、設問 8「授業への教員の熱意を感じた」でいずれも平均 4.25、設問 10「シラバスと内容が一致していた」も 4.23 であり、比較的高い評価が得られた。

一方、設問 9「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」など平均が 4 点に達しなかった設問もあった。講義形式の授業が多かったことが評価得点に反映されているとも考えられるが、学生の理解を高めるためにも今後意識して取り組むべき事項の 1 つと認識すべきであろう。また、設問 14「予習または復習をよくした」についても相対的に評価得点が低かったが、学生自身の問題としてだけでなく、予習や復習を促進させるような工夫が授業運営においても求められていると考えられる。

設問 12 の「総合的にこの授業を評価できる」程度と、他の評価項目との関連について相関係数を比較してみると、最も相関が高かったのは設問 11「この分野の関心と学力が得られた($r=0.80$)」、次いで設問 8「授業への教員の熱意を感じた($r=0.73$)」であり、学生の学習意欲にいかに応えることができるかが重要な要因となっていることが推察される結果である。また、設問 7「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた($r=0.66$)」、設問 5「教員の話し方は明瞭であった($r=0.65$)」、設問 3「教員は授業時間を有効に活用した($r=0.64$)」も比較的高い相関を示しており、授業の運営方法も重要であることが再確認された。これらの結果を踏まえ、授業の改善のためにどのような点に留意すべきか、継続的に検討していくことが肝要であろう。